

人文科学研究科(人文科学専攻)の三つのポリシー

【 修士(文学) 】

大学院の目的 (大学院学則 第2条)
<p>本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。</p>

研究科・教育部(専攻)の教育研究上の目的
<p>本研究科は、学部における一般的及び専門的教育を基礎として、より高度な専門的知識と広い学問的識見を身につけ、現代社会の諸要請に積極的に対応できる、職業的能力及び研究能力を有する人材を養成することを目的とする。</p>

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>本研究科は、幅広い教養と人文科学についての高度な専門的知識を活かし、高い倫理観に基づき、主体的に行動することを通じて、人文科学を発展させ、その成果を社会に還元できる人材を育成することを目的とする。この目的に基づき、本研究科は、人文科学諸分野に関する基盤的能力を修得し、幅広い専門的学識、高い倫理観と豊かな創造力を備えた者に修士(文学)の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】 本研究科では、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に示した能力を修得させるため、体系的な教育課程を編成する。</p> <p>【教育課程実施方針】 授業は講義・演習等の方法・形態等により行い、学生が主体的・能動的に学ぶことができるものとする。その評価は各能力における学修成果の到達目標に対する達成度について、客観的な成績評価基準に基づいて行う。</p>	<p>【入学者受入れの方針】 本研究科は、本学大学院の目的、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、専攻する研究分野についての強い関心と基礎的能力を有し、論理的思考力と創造性を持ち、文化の進展に寄与しようとする意欲を備えている者を受け入れる。</p> <p>【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】 入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供する。 一般入試(前期日程・後期日程) 筆記試験、口述試験、学業成績証明書及び研究志望書等を総合的に評価する。</p> <p>社会人入試 筆記試験、口述試験、学業成績証明書及び研究志望書等を総合的に評価する。</p> <p>外国人留学生特別入試 筆記試験、口述試験、学業成績証明書及び研究志望書等を総合的に評価する。</p> <p>外国人留学生特別入試(指定校推薦) 書類審査、口述試験等を総合的に評価する。</p>
【学修成果の到達指標】	【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p><b>基盤的能力</b></p> <p>【学修成果】 人文科学諸分野に関して基盤となる豊かな学識や、俯瞰的、大局的な視野を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 自らの専門分野に関する基盤的科目の単位を修得している。</p>	<p>【学修内容】 初年次の「特論」で、人文科学の各分野の基盤的な概念や方法論などを学び、「特論演習」で、文献・史料などの高度な読解力及び実験や調査の手法、資料の分析方法などを修得する。</p> <p>【学修方法】 少人数指導、あるいは個々人の研究課題に沿ったマンツーマンの指導を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験やレポートにより、到達度を客観的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 本研究科において学修するために必要かつ十分な基礎学力を備えている。</p>
<p><b>専門的学識</b></p> <p>【学修成果】 自らの専門分野に関する高い研究能力及び深い学識を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 自らの専門分野に関する専門科目の単位を修得している。</p>	<p>【学修内容】 2年次以降の「特論」で、自らの専門分野の専門的な知識や方法論などを学び、「特論演習」で、専門に特化した文献・史料などの高度な読解力及び実験や調査の手法、資料の分析方法などを修得する。</p> <p>【学修方法】 少人数指導、あるいは個々人の研究課題に沿ったマンツーマンの指導を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験やレポートにより、到達度を客観的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 専攻する研究分野についての強い関心と基礎的な知識及び研究能力を有している。</p>
<p><b>倫理観</b></p> <p>【学修成果】 研究倫理に関する規範意識を十分に備えている。</p> <p>【到達指標】 修士論文の完成に当たっては、倫理規範に基づいて、調査、分析、考察を行っている。</p>	<p>【学修内容】 「課題研究」において、文献や資料の扱い方、研究や調査の手法、修士論文の書き方等の学修を通じて、倫理観を身に付ける。</p> <p>【学修方法】 少人数指導、あるいはマンツーマンの指導によって倫理意識を涵養する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 修士論文は、主査及び副査からなる三名の審査員によって評価する。なお、副査の一名は他分野の教員から選ぶことにより、審査の客観性を保つ。</p>	<p>【求める資質・能力】 人文科学の知見と高い倫理観に基づき、社会に貢献しようとする強い意欲を備えている。</p>
<p><b>創造力</b></p> <p>【学修成果】 人文科学の諸分野において、新たな知見を見出し、その知見から更なる価値を生み出す能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 新たな知見を提示し、かつ新たな価値の創造につながる修士論文を完成している。</p>	<p>【学修内容】 「課題研究」を通して、新たな知見の獲得、価値の創造に導く学修を行う。</p> <p>【学修方法】 主として、「課題研究」における少人数指導、あるいはマンツーマンの指導によって修士論文を完成する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 修士論文は、主査及び副査からなる三名の審査員によって評価する。なお、副査の一名は、他分野の教員から選ぶことにより、審査の客観性を保つ。</p>	<p>【求める資質・能力】 論理的思考力と創造性を持ち、人文科学の進展に寄与しようとする強い意欲を備えている。</p>